

令和4年度 第1回赤磐市総合教育会議議事録

- | | | | |
|---|------|---|---|
| 1 | 開会日時 | 令和4年8月18日(木) | 11時00分～12時15分 |
| 2 | 会議場所 | 本庁2階 大会議室 | |
| 3 | 構成員 | 市長
教育長
教育長
職務代理者
教育委員
教育委員
教育委員 | 友實武則
土井原康文
大崎陽二
山本賢昌
平松由香
遠藤益恵 |
| 4 | 関係者 | 保健福祉部長
社会福祉課長
子育て支援課長
教育次長
教育総務課長
学校教育課長 | 谷名菜穂子
原田光治
和田美紀子
有馬唯常
金島正樹
森本治 |
| 5 | 事務局 | 総合政策部長
秘書広報課長
秘書広報課 主幹 | 山本幸治
小引千賀
矢吹文彦 |

○事務局：これより令和4年度第1回赤磐市総合教育会議を開会します。皆様どうぞよろしくお願ひいたします。それでは、市長のごあいさつをお願いいたします。

○友實市長：皆さんおはようございます。本日は、本当にご多忙の中、総合教育会議にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。皆様もご存知のように、赤磐市内においても、多くの新型コロナウイルスの陽性者が発生しています。まだまだ、予断を許されない。本当に緊張感持って、感染拡大を防止していく心がけを皆さんに持っていただきながら、市政の運営をしていこうということで、お盆には、私の声で市民の皆さんに防災無線を通じて、注意を呼びかました。まだまだその緊張感を解いてはいけない。そういう時期です。そういったことを配慮しながら、今日の総合教育会議を行って参りたいと思います。話題とするのは、やはり新型コロナの関係。その他、いろいろな取り組みをしてきています。その辺りを皆様にご紹介しながら、これからの赤磐市の教育を議論できる場となればいいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

○事務局：ありがとうございます。それでは以降の協議につきまして、市長の進行をお願いいたします。

○友實市長：それでは進行させていただきます。お手元の次第に従って進行させていただきます。初めに、協議事項の1番、子どものマスク着用及びワクチン接種について、事務局より説明をお願いいたします。

○森本学校教育課長：よろしくお願ひいたします。子どものマスク着用について、学校での様子等を説明します。お手元の資料の2ページをお開きください。厚生労働省と文部科学省の連名で出されている資料になります。この資料につきましては5月にそれぞれから発出されていて、学校の方にも周知している内容です。学校では基本この通知、チラシにありますような指導をしています。就学児についてということでこの資料の上段になりますけども、マスク着用が必要ない場面、屋外・屋内ということで、こういう条件であればということを示しています。これに従って学校の方でも指導しています。特に学校生活の中で、マスクの必要がない場面として、プールや屋内の体育館等を含め、体育の授業や運動部活動、登下校の際です。そういう部分につきましては、マスクの着用が必要ないと指導をしているところです。ただ、マスク着用をしている期間が数年も経ってきており、マスクを外しながらお子さんもいると聞いています。ただ県や国も、6月ぐらいに、やっぱり熱中症が命に関わる重大な問題であるということで、危険性を適切に指導するという、それから保護者に対しても、理解協力を求めるということで、通知も来ておりますので、国や県の通知をもとに、再度学校の方にも、熱中症の心配がある場合には、しっかりマスクを外すような指導を徹底しているところです。教育委員会としても、6月の下旬に、1学期後半に向けた危機管理の徹底という通知文の中でも、熱中症予防を優先し、児童生徒に対してマスクの着用が不要な場面では、マスクを外すよう指導するように通知を出しているところです。この時期は特に、熱中症をしっかり学校の方も意識を持って指導する、また保護者にも理解を求めるところを、今、徹底して話をしているところです。

○和田子育て支援課長：子育て支援課として、保育園や幼稚園部分を含むこども園があります。それから学童保育です。学校教育課長からご説明ありました同様の資料が届いておりますので、基本的には学校と同じような対応をしていただくということで、周知を図っております。特に2歳未満のお子さんというは、一律にはマスクの着用を求められていないということで、園の状況では、ほぼ外されています。ただ、やはりつけたい方がいらっしゃる場合には、つけていただいても良いということで、強制をしないというようなことにも、心配りをお願いしているところです。

○友實市長：今の説明に対して、あるいはそれ以外でもご意見がありましたらお願ひいたします。

○大崎委員：2つ質問させてください。今朝の新聞に載っていましたが、磐梨中学校の柔道部の選手が全国大会に行きます。このチラシを見ますと、接触を伴う活動の場合にはガイドラインを確認してと書いてあるのですが、柔道部の活動で、どういうことに気を付けて練習したらいいのか。どのようにガイドラインに書かれているのか教えてください。もう1つ、以前、新型

コロナが流行し始めた頃に、学校現場では子どもたちが帰ったら、机の上をアルコール消毒したり、遊具の方も消毒したりして先生方は大変だったと思いますが、今現在はどのようになっているのでしょうか。

○森本学校教育課長：柔道部が全国大会出場ということで、今日も大きく取り上げられていたのを私も見ました。柔道部のガイドラインを確認したというわけではありませんが、それぞれの競技団体でガイドラインがありますので、そのガイドラインに則って、大会や練習が行われていると考えています。ただ感染状況が非常に激しい場合には、組み合うことを止めて、例えばトレーニングを中心にするとか、そういうふうな対応を今までもしてきていました。それから、ガイドラインではないのですが、大会に参加するときとか、普段の練習もそうですけども、体調面、体温でありますとか、体調が悪いときに無理をしないであるとか、そういうあたりは柔道部に限らず徹底しています。一番は無理をしないということではないかと思っています。感染状況が、今も大変な状況でして心配しているところではありますが、しっかり感染症対策しながらやっています。2点目の消毒についてです。学校の規模もそれぞれで、やり方もいろいろとあるのではないかと思います。継続して、消毒活動をしています。学校によっては予算を使って、抗菌コートと言って、一定期間消毒をしなくても大丈夫なようなものもあると聞いています。そういう工夫をして、少しでも消毒の負担を減らすようなことしていると聞いています。

○友實市長：よろしいでしょうか。その他の質問等がありましたらお願いします。

○山本委員：マスクの着用をしないといけない場面と、そうでない場面、ちゃんと別けてあると思うのですが、マスクをしないといけない場面で、子どもの発育の関係でマスクはしない方針であるという保護者がいた場合、どのような対応をとっているのか教えてください。

○森本学校教育課長：マスクをしないといけないと一般的に言う場面で、マスクをしないと言われた方がいた場合の対応ですが、今のところあまり、そのような話は入っていません。もしそういう方がいらっしゃった場合には当然、マスクをする・しないという部分の強制は難しい部分があると思いますので、申し出があった場合には学校と保護者でしっかりお話をした上で、どのような対応をしていくのか、まずじっくり話をさせていただくことが大切。その結果どちらの結果になるかわかりませんが、まずそれぞれの思いを聞きながら、どうしていくのか一緒に考えていく必要があると思っています。

○友實市長：よろしいでしょうか。その他、いかがでしょうか。

○平松委員：幼児のことについてお尋ねします。保育園や子ども園では、マスクを着用していない子どもが多いと思います。パーセントで言ったら、どれくらいのお子さんがマスクをしているのか、していないのか、わかれば教えていただきたいと思います。

○和田子育て支援課長：パーセントについては、きちんと調べてはいないですが、私立の保育園などでは、今よりも前、感染が収まっていた時期ということもあると思いますが、数名させたくないという保護者さんは、いらっしゃったように聞いています。全体で言うたら99%はしていても、うちの子にはさせたくないっていうような。去年も、そういうお問い合わせがあったと聞いています。ただ、やはり強制はしないけれども「今は、みんなで部屋の中に入ったからマスクをする時間だよ」というような、保育士さんなどは、そういうふうな進め方はされていると思うので、ほぼマスクをする時はしているというお答えをさせていただきたいと思います。

○平松委員：幼児の発育に対して、マスクの着用がどうなのか。コミュニケーションを取ったりする場面でやっぱりマスクをしていると表情が見えないとか、色々なことが考えられますので、保育園とか幼稚園でどうなっているのかと思い聞かせていただきました。ありがとうございました。

○友實市長：よろしいですかね。遠藤委員、いかがでしょうか。

○遠藤委員：失礼いたします。私も平松委員がおっしゃったように、多感でいろいろなことを学ぶ時期の子どもたちにとって、相手の表情を見て、また口元を見てコミュニケーションの力を培っ

ていくという大事な時期に、やはりマスクをなるべく外して、学校生活を送ってもらいというのが、私の意見です。ただ、感染状況にもよりますし、また学習内容、活動状況にもよりますので、例えば外でしたらマスクを外してもいい、授業中はほとんど、大きい声出すわけではないのでマスクを外してもいい、ただし、お友達と授業後の休み時間にしゃべるときはマスクを着けよう、というような、ある程度のルールは要るかもしれませんが、感染状況がかなり落ち着いてくれば、そういうこともなしに学校ではもうマスクを外していい、登下校もマスク外していい、というような感じで、このマスクのルールというものを下げていくというようなことも必要なのかと思います。例えば、子どもたちのコミュニケーションという意味においても、例えば聴覚障がいがある児童生徒、または障がいとは認定されていないけれど、例えば、聞こえづらい児童生徒、また相手の口元を見ることで、より理解を深めていくような児童生徒もいますし、そのような子どもたちのことを考えますと、やはり先生の口元がマスクで覆われている、友達の表情を見ることができないマスクの生活というのは子どもたちの発達を遮るものになるのではないかなというふうな意見は持っています。

○和田子育て支援課長：2歳・3歳の頃の言葉の発達については、保育士さん方も大変苦慮されています。普段は白いマスクをつけていますが、給食指導をするときなどは、一定程度離れたらフェイスシールド、透明のものにつけかえて、口元がわかるようにしています。フェイスシールドが対応可能なときはそういうものを使って、保育に当たられるなどの配慮もされています。言葉のコミュニケーションに関しては、できる限り表情ですからそういうことでのコミュニケーションをしっかりと図っていくように、それぞれ心配りをされているというふうには私立園も含めて、お聞きしています。

○友實市長：非常に難しい問題であろうかと思えます。感染の拡大を防止するという観点からいけば、ある程度は優先される所はあろうかと思えます。それが無い場合には、おっしゃったような、子どもの発達、そういったものも大事な要素です。そういったものを、相反する問題になろうかと思えますけども、大きな方針として持っておくことが必要ということになろうかと思えます。続いて、ワクチン接種の事に触れさせていただきます。事務局説明をお願いします。

○谷名保健福祉部長：資料3ページをお開きください。現在新型コロナの感染状況が激しいです。昨日も赤磐市内80人というような新規感染者が出ています。そういった中で、ワクチンの接種状況を一覧にして参りました。3ページ目の1番上の段は接種率です。2番目が実際の接種件数。1番下が赤磐市の人口です。そのように見ていただきますと、5歳から11歳の接種率は、1回目が終わった方は15.22%、2回目が終わった方が13.57%。人口にすると、1回目が435人、2回目が388人となります。12歳から19歳の方は、少し早めに開始されたということもありまして、率が上がります。小学校6年生ぐらいから高校生ぐらいまでの方が対象になりますが、1回目が71.12%、2回目が69.7%。3回目ももう既に受けている方がいらっしゃる、というのが12歳から19歳の状況です。現状の感染者の発生状況を見ますと、一昨日までのデータなのですが、今月711人の方が感染しておりまして、10歳未満がそのうちの120人。それから10代の方が83人。20代77人。30代106人。40代118人というような結果です。50代はちなみに77人。60代50人、70代40人、80代が22人、90代が17人というような状況でした。高齢者の方は4回目接種もかなり進んでいるというような状況です。ワクチンについて、いろいろなことも言われますが、国の方もワクチン接種はできるだけ進めて欲しいということで、後で配りましたチラシを見ていただきましても、8月8日の厚生科学審議会予防接種ワクチン分科会の方では、やはり、このオミクロン株の流行下で、9月上旬より、5歳から11歳の小児に対しても努力義務を適用する予定ということで方針が出ています。説明は以上です。

○友實市長：よろしいでしょうか。ワクチンに関しては、国もいろいろな面で取り組みをしています。10月からは、新型ワクチンが適用されるというような情報もありますけども、非常に複雑なことになろうかと思えます。現在、市の方で、公開できる新しい情報はなかなか無いというような状況です。そういう点を踏まえて、何かご意見等がありましたらお願いします。

○大崎委員：私もワクチンは4回打ちましたが、副反応が人によってかなり違うみたいで、私は4回目が1番楽でした。ある方は、1週間経ってもまだ体がだるくていけないとか、2～3日高熱が出たとか聞きます。そういう事を聞いておりましたら、小さい子どもに、ワクチンをぜひ打ちましょうというのは、私個人としても、すごく言いにくいところではあります。実際にコロナにかかって、中等症とか重症になる子どもたちが多かったら、ワクチンを打った方がいいのかなと思うのですが、無症状とか軽症だったらワクチンは無理して打たない方がいいかなという、私自身では、こうしたら良いというようなことがなかなか言えません。

○友實市長：ありがとうございます。確かにワクチンとコロナについてはいろんなご意見があるのは承知しております。ただ今のオミクロンのBA5についても、非常に感染力が強くて、多くの陽性者を出しています。その中で傾向を見ますと、先ほどの説明にありました、接種率の低い年代層が陽性者で非常に多いということが傾向として出ておりました、やはり、ワクチンの効果というのは否定できない。感染対策の救世主的な存在であるということだけは、この結果からは伺うことができます。そういったこともあって、ワクチン接種について、強制はできません。しかしながら、この効果という点では、市民の皆様にご存知いただくということは必要かなというふうには思います。いずれにしても、今の本当に、想像を絶するような感染者数が発生しています。そういったことも直視しながら、行政としての行動を決めていかないといけないのかなというところです。また、国の方もそういったことをもう少し詳しく、正しく情報提供していただくように、例えば全国市長会を通じて情報提供を求めていくというような活動も一方でさせていただいております。また、そういう情報が公開されたならば、いち早く市民の皆様にもお伝えできるよう、アンテナを高くして臨んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。それでは、話題を戻しまして、各事業の進捗状況の説明から入らせていただきます。

○原田社会福祉課長：資料の5ページをお願いいたします。障がい者基幹相談支援センターの令和3年度の実績一覧表を載せております。令和3年度の相談件数は、1,417件となっており、前年度比で4.8%、60件ほど伸びています。傾向としましては、実人員はそれほど増えていませんが、コロナ禍で公共施設が閉まってしましまして、電話相談が増えたり、今まで全く関わりなかった人から急に連絡が入ったり、そういった傾向がありました。

○和田子育て支援課長：4ページに戻っていただきまして、子育て分野のご相談についてです。566件が令和3年度の実績でした。令和2年度の実績が406件ということで、増えるのが良いかどうか悩ましいところではあります。相談を気軽にさせていただける方が増えてきているというふうにとめております。

○森本学校教育課長：通学路の安全点検について説明します。昨年度も千葉県で大きな通学中の事故があり、大変痛ましい事故が毎年のように起こっている状況があります。そういった交通事故を未然に防ぐ、防止するためにも、通学路の安全点検活動を行っています。毎年5月に各学校から通学路の危険箇所についての報告があり、その内容をもとに赤磐市通学路等交通安全プログラム連絡協議会、年4回開催していますが、協議や現地確認をして、改修等の方針等を定めています。資料の6ページです。第1回会議は6月に開催しまして、危険箇所の要望や対策の実施状況を確認しました。その中で、すでに対応が済んでいる状況や、令和4年度に改修予定のところも確認ができました。その主な内容としては、危険箇所にポストコーンを設置して、歩行者の通るところと自動車が通行するところを区別する。もっと危険な箇所についてはガードパイプを設置する。それから、横断歩道が見やすいようにラインの引き直し等を行うという対応をしていく予定となっております。また、連絡協議会で8月下旬から9月中旬にかけて、どういったふうな対応をしていけばいいのか現地確認も行う予定としています。連絡協議会には、県の建設部門や市の建設課、くらし安全課、赤磐警察署、市教委、関係部署が集まって現地を確認する計画をしています。

○有馬教育次長：資料の9ページ、ホッケー女子日本代表、アイルランド代表強化合宿が市内で行われたことについてご報告します。教育委員会では、ホッケーを核としたスポーツ振興、国際理

解、文化交流を進めているところです。日本代表チームが5月の21日から、アイルランド代表が5月27日から、赤磐市にお越しいただいて強化合宿を行いました。それぞれのチームのホッケーの強化のみならず、空いた時間等を活用させていただき、いろんな取り組みを進めてきました。資料10ページには、赤磐市にお見えになられた状況、それからフレンドリーマッチとして開催された様子。資料11ページ上段までがそうした資料です。5月30日、中段から下になりますけども、市内の小学校の生徒たちと交流を行いました。12ページには、日本文化の体験交流ということで、市内の事業者様、それから観光名所、そうしたところに出向いていただき、日本文化の体験交流をしていただきました。最後、13ページには、日本代表チームからのお言葉、またアイルランド代表のチームからお言葉をいただいたものを掲載しています。特に、ご協力いただきました文化協会の方々にお力をいただいて、盛大にお迎えができたと思っております。この文化交流に携わっていただいた教育委員さんもいらっしゃると思っておりますので、その時のご感想等をまた後程、お知らせいただけたら幸いかなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○森本学校教育課長：未来が見える学校プロジェクトについて説明します。桜が丘中学校をモデル校として取り組んでいます。令和2年度から進めています。コロナ禍という事もあります。それ以前から、時代の変化が非常に急激な、また先行き不透明な社会で、先を見通せない状況です。その中で、生徒・教職員ともに自分でしっかりと考えながら、また困難な答えのない課題に、他者と協力・協働しながら、納得解・最適解を見つけていく。そういう学校、アップデートし続ける学校が必要ではないかということで、取り組みを進めているところです。現在、スクールコーディネーター常勤職員を1名配置し、学校の改革を進めています。資料は14ページのとおりです。3つの大きな改革を掲げて進めています。テスト宿題改革、考勤改革、カリキュラム改革というこの大きな三つを柱にして進めています。テスト宿題改革につきましては、学ぶ意義や意味、それから自ら主体的に学習に取り組むというところを目指して進めています。考勤改革という部分では、文字どおり、考えて動くというところですが、自分で考えて他者と繋がりながら、最適解・納得解を導き出すということをやっています。それから3つ目のカリキュラム改革ですが、時代に合った教育課程、ゆとりを持ちながら学校生活を送れるような改革を進めているところです。この取り組みをしていく中での成果として、挙げている3つが見えてきているところです。学校に行くのが楽しく充実している、家庭学習時間の増加、それから学力調査結果の方も高いレベルを維持できているという状況が成果として見えてきています。今後はこの取り組みを市内の学校に広めるということで、年間4回、学校公開週間ということで、市内の学校へ周知をして見に来ていただいて、取り組みを広めていくということを進めています。それから、7月の山陽新聞朝刊の方にもその取り組み内容が掲載されていて、県内の学校の方から視察の依頼も来て聞いています。

○友實市長：事務局から説明がありました。ご意見やご質問がありましたらお願いいたします。

○山本委員：ホッケーアイルランド代表の合宿についてですが、スタッフの方の感想を読んだら、赤磐市内に宿泊施設があれば朝晩もっと練習できるのではないかなというような感想が書いてあったのですが、私もそう思っています。国際交流を推進させていくために、赤磐市内に国際交流の拠点となるような宿泊ができるような施設を作っていただければいいのではないかと思います。提案をさせていただきます。もう一つ、未来が見える学校プロジェクトについてですが、「学校に行くのが楽しく充実している」の肯定的評価が増加とありますが、不登校との関係が数値として見えてきていれば教えてください。

○友實市長：まず、宿泊施設に対してのご質問は、私の方から少しお答えをさせていただければと思います。山本委員のおっしゃるように、宿泊施設が赤磐市に無い。無いわけではないのですが、いわゆるホテルとか、そういう受け皿がないのは事実です。そういったことから、赤磐市内に、ホテルの誘致。これからの市政の大きな課題として、取り組みを強めていきたいと思っています。そのためには、やはり国際試合とか、あるいはシーガルズで、合宿に来た選手た

ちの受け皿というだけでは1年を通しての経営を成り立たせるだけの、顧客ということにはなりません。もっと誘客が期待できるような施策を合わせて展開していくことが大事なことだと思っています。赤磐市の政策を、そういったことも意識しながら、進めていくということ、これから行って参りたいと思いますので、ご理解をお願いします。

○森本学校教育課長：未来が見える学校プロジェクトの件で、不登校の状況についてですが、桜が中学校では、この改革を始める以前もそうでしたが、不登校と言われる生徒が非常に多い状況でした。不登校と言うのは、病気であるとか経済的理由を除いた、年間の欠席日数が30日以上のお子さんが不登校ということになります。非常に数が多い状況でした。この改革は、令和2年度からスタートしていますが、徐々に不登校の人数は減ってきている状況です。ただ大きな学校ですので、減ってきたといえ、やはり一定数の人数がいます。今年度、桜が丘中学校だけではありませんが、不登校は市全体の課題ですので、不登校の別室と言われるところも開設をして、不登校対策をしている状況です。もう一つ、桜が丘中学校は不登校の数もそうですが、不登校までならないが欠席するお子さんも多く、この取り組みの指標として、1日当たりの欠席者数というのを、数年前から経過を追っています。欠席する理由はいろいろで、怠惰という部分や、家庭状況もありますが、やはり欠席を簡単にしてしまう事も課題ではないか。今、コロナの状況で、学校に行きたくても体調面等、行けないお子さんもいたりするので単純比較はできませんが、三つの取り組みが少し効果を出てきているのか、以前よりは減少傾向にあります。不登校と欠席者数をしっかり把握していきながら、この取り組みの効果を検証していきます。

○友實市長：この未来が見える学校プロジェクトを始めて3年が経過します。すべての学年が入学時から、このプロジェクトということで、私としては第一歩かなと思っています。これらの取り組みは、すぐに効果が出るというものではありません。地道に、良いところを伸ばして、問題点があれば、課題解決に向けてみんなで努力していく。そういう事がこれから始めると思っています。より良いものにしていくためには、教育委員の皆様方の、ご意見も大事だと思っていますので、引き続きよろしく願いいたします。その他ありませんか。

○遠藤委員：アイルランド代表チームとの交流ということで、日本文化体験交流の話が出ました。私もサロンに参加させていただきました。着付け・篠笛・日本舞踊・華道・書道など、様々な分野の方々が、力をひとつに結集して取り組んだような印象を受けました。皆さん、自主的で精力的に関わっていらっしゃるって、本番を迎えるために、大変長い間ご準備していらっしゃる。たくさんの方が関わられたですけれども、皆さんが自主的に精力的にされていたのが印象的でした。これが生涯教育の本当の理想の形なのではないかなという印象さえ受けるようなイベントでした。今、国際貢献・社会貢献そしてスポーツを通して、赤磐市がこういうふうな貢献をしているということを知りたくて、地域の皆さんに認知していただく大きなイベントとなったのではないかなと思っています。また、未来が見える学校プロジェクトの件について、今ちょうど3年目を迎えておられて、保護者の方に、お話を聞く機会がありますが、まだピンと来ていらっしゃる方も多いです。せっかくいい取り組みをしていますし、学校現場の先生もいろいろ模索して、いろいろなアイデアを出して、日々の仕事も量が多くなってきているにもかかわらず、一所懸命してくださっていることを、保護者の方にもっと周知したい。例えば、テストがたくさんある。それはおそらく認識されていると思いますが、朝の会がないこと、部活動のこと、掃除のことなども、未来が見える学校プロジェクトの一つと認識できていないようなことを耳にします。まだまだここで安心せずに、保護者の方にどんどん啓発活動を続けていかなければならないと思っています。未来が見える学校プロジェクトについて、テストがたくさんある。子どもたちは1年間テストを繰り返しているような感じで、すごく鍛えられています。それは間違いありません。そして、思考力判断力を問うような問題を、多く先生も出されている。子ども達の力がついてきているというのも私自身も感じますし、保護者の方々も、高校受験、大学受験に向けて子ども達を鍛えていただいて、感謝されている面があります。お伝えしておきたいと思

いました。あと一点、不登校の数が減ってきているという事で、別室指導の話が出ました。県費で1名、そして市費で2名ということで、効果があらわれてきていることから市費での配置を増やしていただいていることも、学校現場、先生方そして、児童生徒たちを救うという意味で、この市費としての配置はありがたいことと思います。感謝いたします。

○森本学校教育課長：貴重なご意見をありがとうございます。周知という部分で、保護者の皆さんに、この取り組みの意図であるとか、内容を伝えることは、様々な部分で、これからも継続してやっていかないといけないと思いました。学校も、年度末になると思いますが、次年度のこの取り組みということで、オンラインスクールミーティング、おそらくYouTubeでプレゼンを流して、伝えるような取り組みをしていると聞いています。また、何月号か忘れましたが市の広報紙でも、未来が見える学校プロジェクトの取り組みを、周知もさせていただいたところがございます。これで本当に終わりではなく、今後もいろんな機会をとらえて周知をしていく必要があると思いました。今後も検討していきたいと思っております。ありがとうございました。

○友實市長：ホッケーアイルランドのチームの皆さんは、とても喜んで帰られました。それだけでなく、ニュージーランドの女子チームは、コロナの前に一度、赤磐市にお越しただいて、地域の方々も含め、大歓迎させていただいた。ニュージーランドチームから、ぜひもう1度、岡山に行きたいと高い評価をいただき、コロナの関係で実現しませんでした。子ども達を含めた交流は今も続いています。ニュージーランドでジャパNDERというイベントが大々的に行われます。これはニュージーランドでのイベントではありませんが、東京のニュージーランド大使館で開催するので、赤磐市からお越しいただきたいとオファーを受けています。コロナ次第で慎重に考えていきたいと思っております。それから、カナダチームが、オリンピックの直前キャンプを行いまして、これも、非常にカナダのチームが困っていた時に、赤磐市が受け入れたという事もあり、赤磐市に対して、大きな感謝の言葉をいただきおまして、子どもたちを含めて、交流が続いています。関係を大事にしながら、先ほど、山本委員からご指摘ありましたように、今、国際問題は非常に深刻な状態になっている部分があります。今こそ、交流をしっかりと、信頼関係を築くということを、改めて感じており、引き続き熱い友情を育んできたい。そう思っています。

○山本委員：4. その他についてでも良いでしょうか。こういう機会なので、4点提案させていただこうと思っております。国際交流の関係ですが、教育委員会で今年重点施策として、国際貢献について学ぶということで、各中学校で講師を呼んで国際貢献について講演してもらうという施策をやっていますが、5月頃に学校に通知を送ったけど、7月の教育委員会の時までには、どこからも応募がなかった。以前、スリランカに、中学生を派遣して勉強してもらったということがありました。その事業を、市長がどう感じたのか、AMD Aの方とタッグを組んで講演に来ていただければ、興味を持ってくれると思うので、お願いしたいと思っております。次に、小学校の統廃合の関係ですが、私としては、生徒が少なくなってしまうと、男の子ばかりとか、女の子ばかりになるとか、多様性を認め合っていくという時代なのでいろいろな人が、いろいろな人に出会って個性を大切にすることが必要だと思っております。子どもが少なくなってしまうと、その辺ができなくなる。教科の勉強は、手厚く教えてもらえるので少なくともいいと思うのですが、多様な人とのふれあい、体験はできなくなってしまう。本当は、各学校人数が増えて存続していくのが一番いいと思うが、統廃合はやむなしと思っております。地域の方は学校が無くなってしまうと非常にさみしい思いをします。地域の賑わいの創出がないと前に進んでいけない。学校が無くなる地域をどのように盛り上げていくかを考えながら、統廃合を進めていってほしいと思っております。その中の一つとして、空いた学校を国際教育、国際交流の拠点として宿泊ができる施設にいただければ、良いのではないのでしょうか。大きな赤字になってしまうといけません。若干の赤字は国際交流のための費用だと思って大目にみていただく。そういう度量でやっていただければいいかなと思っております。3点目ですが、両宮山古墳の保全と活用について、山陽新聞で見たのですが、倉敷で楯築遺跡

を復元しようという活動があったり、岡山市で造山古墳の近くに千足古墳があって、そこを整備して来年公開する動きがあったり、桃太郎伝説の構成市でそのような動きがあります。赤磐市の両宮山古墳も謎が多いと言われているので、発掘調査をして謎を解き明かす。本当は2重の周濠があるらしいので、格式が高いものらしい。内側の周濠の一部埋まっている所の復元とか、外側の周濠も、直し復元して、2重の周濠を少しでも復元することを考えていただければ、ありがたいと思います。最後に、中央公民館の耐震補強についてですが、大集会室も改修もすると思いますが、一流のバイオリニストが演奏してもおかしくないくらいの設備に改修して、名前を、福田廉之介ホールにして、赤磐市で活躍して活躍している若い人の顕彰にもなると思いますので、それも検討していただきたいと思います。

○友實市長：お答えさせていただきます。まず、国際貢献について。スリランカへ子ども達と行って、いろいろな交流をしてきました。今はストップしています。新型コロナウイルスのまん延、あるいはスリランカの国際情勢が不安定になっているためです。今は行けていない状態が続いています。この目的ですけれども、国際交流ということもありますが、私の経験からいって国際協力。国際交流と協力というのは、似ているけど違います。私も、若い頃に、国際協力事業団の関係で、専門家として、途上国に派遣された経験があります。開発途上国で、劣悪な環境の中で、彼らはプライドを持って生きている、生活している。そういう現場で、一緒に働きます。彼ら、支援を受ける人もプライド持っている。そういったことは、日本国内に居ただけではわかりません。私も知らなかったです。わからなかったです。こういった経験を中学生や高校生にさせていただければ、目線は変わります。別に、国際的な、仕事に将来就かなくてもよい。目の前に困っている人がいたら助ける。それから、困っている人も、プライドを持って生きているということを学んでいただく。それぞれの子も達の、将来の役に立たせていただきたい。こういう思いで、子ども達とスリランカに行って参りました。情勢などが安定してくれば、引き続き実現していきたいと思っています。次に、小学校の統廃合についてですが、これは前向きな意見をいただいてありがたいと思います。現在、赤坂の3地域で、地区懇談会を開催しています。その中で、どのようなご意見が出て、皆さんのご意向、地域の声を背に受けて進めていくことが大事だと思っていますので、地域のご意見を集約している段階です。それによって、これから先の方向性が決まって来るものと思いますので、よろしく願います。次に、両宮山古墳についてですが、我々にとって貴重な財産です。両宮山古墳の中の堀・護岸が、老朽化して崩れています。この修繕工事を年度、年度で実施しています。岡山市の造山古墳の事例を挙げられました。造山古墳も、両宮山古墳と同じように、いい状態で保存されています。造山古墳にはビジターセンターが設けられています。また、駐車場整備も行われて、非常に訪ねていきやすい。従前はそうではありませんでした。なぜそうなったか。私も少し、岡山市の職員時代に関わっていましたが、地区で活動される方の熱意が行政を動かした。このことに尽きると思います。地区の熱い思い、熱い活動が、ビジターセンターや駐車場整備に繋がっていく。そういう意味では、両宮山古墳は財産として大切ですが、地域の声こそがそこまでというのは、私には感じられません。もっとも地域の声盛り上がってくれば、我々も、実現を果たしていきたいと思っています。次に、中央公民館について。現在、耐震補強の準備を進めているところです。耐震工事の中で、内装工事も、ほぼ一新されます。そういう中で、ステージについては、現状より、大きなステージというのは非常に難しいです。音響、あるいは座席数、こういったものは、現状より、だいぶ増えます。今、250席くらいですが、全部で300席くらいになろうかと思っています。その中で、福田さんのコンサート、恥ずかしくないレベルで実現できるように、限られた財源の中で、最大の効果が発揮できるような改修工事を進めていきますので、ご理解いただければと思います。私からは以上です。事務局から補足があれば願います。それではこれで、令和4年度第1回の赤磐市総合教育会議を閉会とさせていただきます。皆様、いろいろありがとうございました。今後の参考に、しっかりさせていただきます。お疲れ様でした。